

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望 = ドル円は105～107円台を中心とするレンジ相場か

週間高低 (カッコ内は日)		8月17日～8月21日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	106.61	106.68(17)	105.10(19)	105.57	-1.03
ユーロ・ドル	1.1844	1.1966(18)	1.1802(20)	1.1874	+0.0032
=====					
国内株・金利/米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	22,920.30	-369.06	日本10年債利回り	0.033	-0.018
ダウ平均株価	27,739.73	-191.29	米10年債利回り	0.651	-0.059
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 24日 NZ第2四半期小売売上高
- 25日 独第2四半期国内総生産(GDP) 確報値
 - 独8月ifo景況感指数
 - 米6月住宅価格指数
 - 米6月S&Pケースラー住宅価格指数
 - 米8月消費者信頼感指数
 - 米7月新築住宅販売件数
- 26日 NZ7月貿易収支
 - 米MBA住宅ローン申請件数
 - 米7月耐久財受注
- 27日 スイス第2四半期国内総生産(GDP)
 - カナダ第2四半期経常収支
 - 米第2四半期国内総生産(GDP) 改定値
 - 米新規失業保険申請件数
 - カンザスシティ連銀主催年次シンポジウム(27～28日)
(ジャクソンホール会合、オンライン形式)
 - パウエルFRB議長講演
- 28日 スイス8月KOF先行指数
 - カナダ第2四半期国内総生産(GDP)
 - 米7月個人所得・支出
 - 米8月シカゴ購買部協会景気指数
 - 米8月ミシガン大学消費者信頼感指数

【前回のレビュー】8月に入ってから米10年物国債利回りは低下が一服して上昇傾向にあり、ドル円の底堅い動きも米長期金利の上昇にサポートされている。ドル円は大きく上値を追うにはやや力不足ながらも、堅調な推移が継続するとした。

【FRBによる一段の金融緩和の見方が後退】

17～18日はドル売り円買いが進行して、ドル円は106円台後半から105円台前半まで下落した。17日は8月のNY連銀製造業景気指数が大幅に悪化したことや米政府による華為技術(ファーウェイ)への制裁強化などが圧迫要因となり、ドル売り円買いの動きとなった。18日には米国での追加経済対策を巡って共和党と民主党の協議に進展がなく、法案の成立が9月にずれ込む可能性が出てきたことなどがドル売りにつながった。

19日には7月28～29日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事要旨が発表された。それによると新型コロナウイルスの感染拡大が経済見通しに関し

て、相当深刻なリスクになるとの認識を示している。また、米連邦準備制度理事会（FRB）は国債利回りをコントロールしようとするイールドカーブコントロール（YCC）に関しては、有効性が限定的との見方が示されており、導入には否定的とみられる。

また、9月のFOMCでフォワードガイダンス（将来の金融政策指針）を見直すとの見方が後退するとともに、一段の金融緩和策の導入には前向きではないとの見方が広がった。市場の想定ほどハト派的な内容ではないとの見方から、米長期金利が上昇して、ドル買いの動きとなり、ドル円は106円台前半まで上昇した。

ただ、20日発表の米新規失業保険申請件数が110.6万件と再び100万件を超え、8月のフィラデルフィア連銀景況指数が市場予想以上の低下を見せるとドル売りの動きとなり、ドル円は105円台後半まで下落した。

ドル円は12～14日に107円台にタッチしたものの、107円乗せの後は上値を伸ばすことはできなかった。その後、下げに転じたものの、105円台前半では下げ渋りを見せている。ドル売りの動きが続いてきたものの、その流れも一服しつつある。一方で、107円を超えてのドル買い円売りにも傾きにくい状況となっている。

8月24日の週で最も注目されるイベントは、カンザスシティ連銀主催の年次シンポジウム（ジャクソンホール会合）となりそう。今年は新型コロナウイルスの感染拡大の影響のため、オンライン形式で開催される。パウエルFRB議長の講演も日本時間27日の午後10時過ぎから予定されている。今後の金融政策に影響を与えるような内容となれば、ドル円の動きに影響を与えることとなる。

米10年物国債利回りが0.71～0.72%台まで上昇した8月12～14日ごろには、ドル円は107円近辺まで上昇した。その後も米10年物国債利回りと同様におおむね連動した動きに戻りつつある。ただ、ドル円は最近のレンジ相場を抜け出しにくくなっている。米中対立激化への警戒感や米経済指標や株価の動向を眺めつつ、ドル円は105～107円台を中心とするレンジ相場となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、105.00～108.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、25日に米6月住宅価格指数、米6月S&Pケースシャー住宅価格指数、米8月消費者信頼感指数、米7月新築住宅販売件数、26日に米MBA住宅ローン申請件数、米7月耐久財受注、27日に米第2四半期国内総生産（GDP）改定値、米新規失業保険申請件数、カンザスシティ連銀主催の年次シンポジウム（ジャクソンホール会合、27～28日）、パウエルFRB議長講演、28日に米7月個人所得・支出、米8月シカゴ購買部協会景気指数、米8月ミシガン大学消費者信頼感指数などがある。

【ユーロドルの上昇基調は継続か】

ユーロドルは12日に1.1711近辺まで修正安を見せた。その後、1.19台を回復するとともに6日の高値1.1916を上抜き、18日には1.1966まで上昇した。19日にはFOMC議事要旨を受けてドル買いユーロ売りに傾いたことで、上げ一服となった。ただ、その後の押しは浅く、調整は限定的となっている。

ユーロドルは直近高値からは軟化したものの、上昇トレンドは継続しているとみられる。1.2000ドルの節目を視野に上昇が継続することとなろう。米国株のうち、ナスダックやS&P500は過去最高値圏にある。NYダウは高値から調整しているものの、高値圏で底堅い動きを見せている。堅調な米国株はドル売りにつながりやすく、引き続きユーロドルのサポート要因になるとみられる。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.1750～1.2100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、24日にNZ第2四半期小売売上高、25日に独第2四半期国内総生産（GDP）確報値、独8月IFO景況感指数、26日にNZ7月貿易収支、27日にスイス第2四半期国内総生産（GDP）、カナダ第2四半期経常収支、28日にスイス8月KOF先行指数、カナダ第2四半期国内総生産（GDP）などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。